

2022年3月期第3四半期連結決算 セグメント別損益及び貸借対照表説明

2022年2月7日

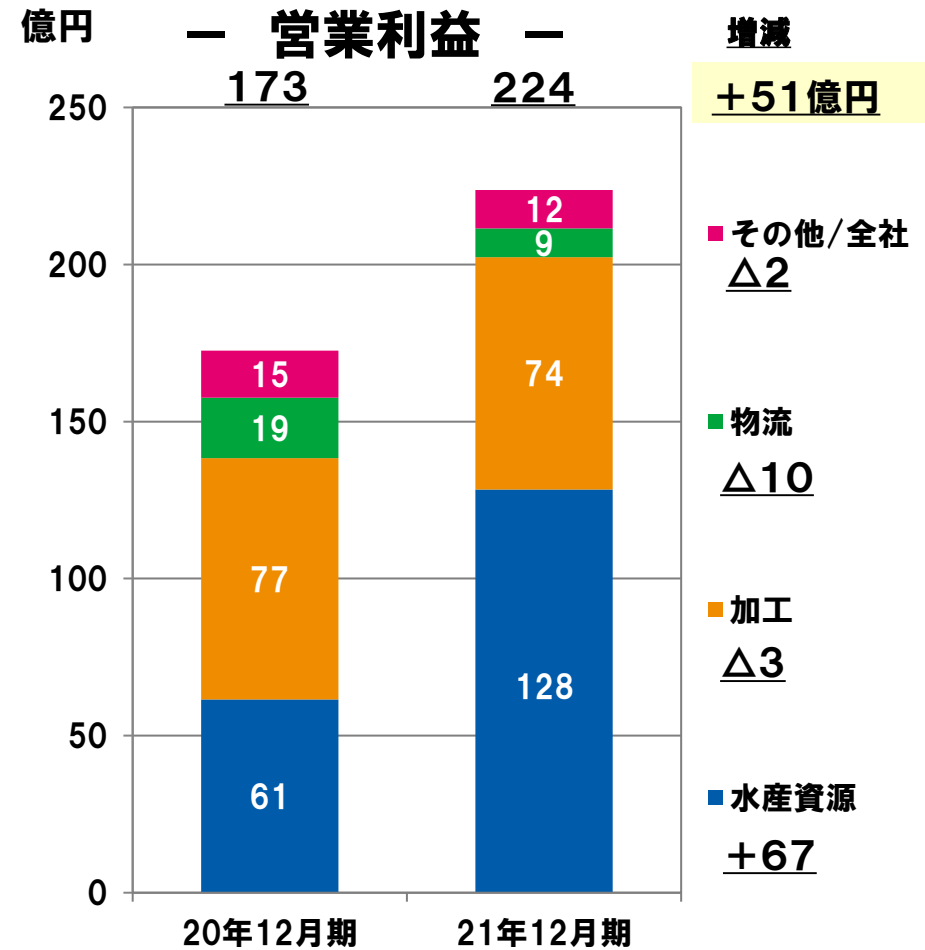
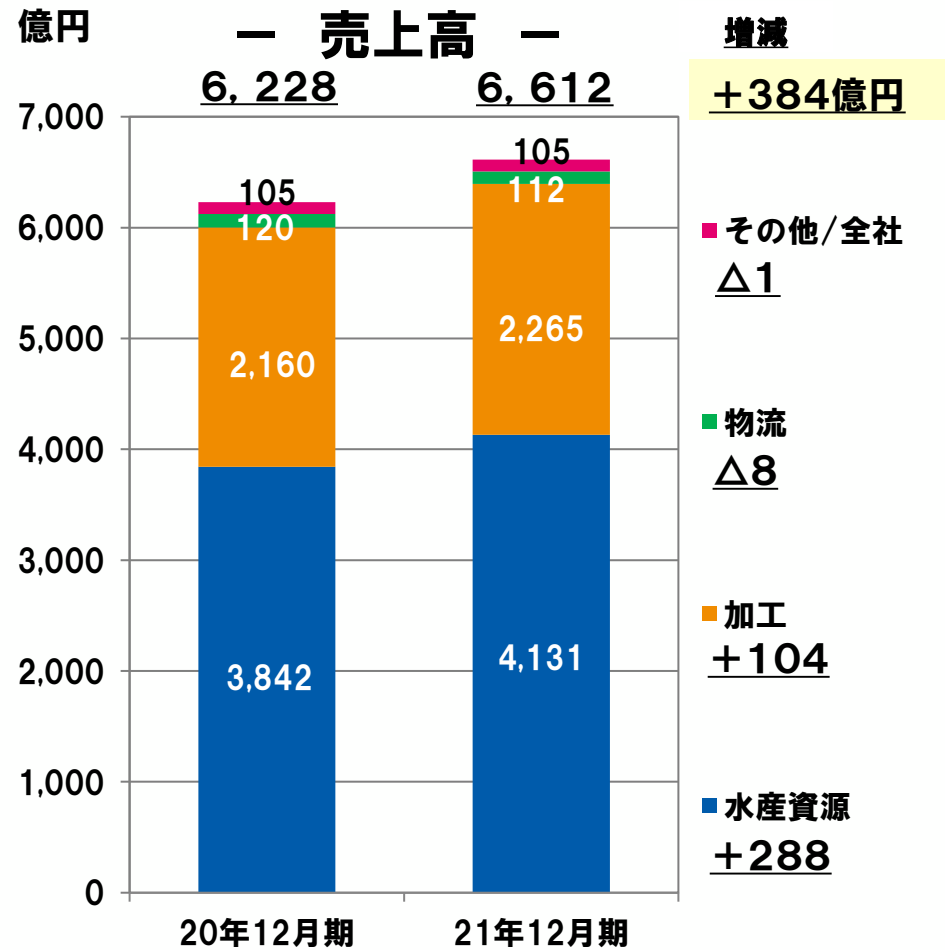


1. 連結損益計算書

(単位:億円)

	21年12月期	20年12月期	増減	主要科目
売上高(収益認識基準適用後)	6,612	6,228	384	
売上原価	5,664	5,361	302	
売上総利益	949	867	82	
販売費・一般管理費	725	694	30	
営業利益	224	173	51	
営業外収益	51	38	12	持分法による投資利益 12億円
営業外費用	27	23	4	為替差損 10億円
経常利益	248	188	59	
特別利益	4	1	3	固定資産売却益 3億円
特別損失	11	63	△ 52	固定資産処分損 7億円
税金等調整前四半期純利益	241	126	115	
法人税等	57	26	31	
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	25	△ 3	
親会社株主に帰属する四半期純利益	162	75	86	

2. セグメント別 売上高／営業利益



「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。また、当該会計基準等の適用については、原則として遡及適用されるため、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

3-①. 水産資源セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)					営業利益				
		21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率	21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率
水産資源	漁業	231	236	△ 5	290	80%	3	16	△ 13	11	27%
	養殖	113	92	21	133	85%	△ 2	△ 18	16	△ 14	-
	水産商事	1,244	1,186	58	1,478	84%	45	37	8	32	141%
	荷受	1,455	1,320	135	1,744	83%	11	0	11	5	220%
	海外	1,088	1,008	79	1,346	81%	71	27	44	49	145%
セグメント小計		4,131	3,842	288	4,991	83%	128	61	67	83	154%

【事業概況】

漁業: 豪州での高収益商材であるメロの繰越在庫減少による販売減により減収減益。

養殖: 依然としてコロナ禍による外食・業務筋向け販売への影響が残るものの、主要荷受及び量販店向けを中心としたマグロ販売数量増加と相場回復、ブリ相場の上昇により増収、事業収支は大幅に改善。

水産商事: 新型コロナウイルスの影響下で生産遅延や船積みの遅れが危惧されたものの、多様な買付けルートを活用して商材を確保し、販売面では量販店、宅配、医療機関・高齢者施設向けに拡販した結果、各魚種の単価上昇もあり、増収増益。

荷受: 自社加工機能を活用した量販店への拡販、冷凍品の販売単価上昇及び利益率の改善により、増収増益。

海外: 北米...不採算事業であった鮭鱒事業撤退及び助宗商材の販売価格上昇により減収増益。欧州...販売会社への追加出資による子会社化や堅調な欧州市場での販売増により大幅な増収増益。アジア...ベトナムの加工販売会社の買収により増収、タイのペットフード事業で原料安に加え、北米市場の強い需要による販売増にて増益。ユニット全体では増収増益。

3-②. 加工セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)					営業利益				
		21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率	21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率
加工	家庭用冷凍食品	403	389	13	506	80%	14	18	△4	19	74%
	家庭用加工食品	257	267	△9	358	72%	19	25	△5	24	79%
	業務用食品	908	839	69	1,190	76%	20	12	9	22	91%
	畜産	561	532	29	688	82%	7	7	1	10	70%
	化成	136	134	2	180	76%	13	16	△3	19	68%
セグメント小計		2,265	2,160	104	2,922	78%	74	77	△3	94	79%

【事業概況】

家庭用冷凍食品：内食需要の継続により、主食の麺・米飯やグラタン類、食卓惣菜が伸長し、増収となったものの、原材料や海上運賃、エネルギーコストの上昇が影響し、減益。

家庭用加工食品：デザート...夏場から秋口の好天と業務用向け商品の導入により、増収増益。缶詰...水産原料高騰を受け販売価格が上昇したことから市場が低迷。フィッシュソーセージ...価格競争が強まるなか、販売が遅れて減収減益。ユニット全体では減収減益。

業務用食品：新型コロナウイルスの影響が依然として残るものの、量販店惣菜、コンビニエンスストア、生協等の宅配向けが堅調に推移し、増収増益。

畜産：欧州ポーク、輸入鶏肉、輸入牛肉の取り扱いが増加し、また、北米ポークの利益率低下があったものの欧州ポーク、国産牛肉、輸入鶏肉の利益率増により、増収増益。

化成：DHA・EPA及びコンドロイチンの販売が伸び、増収となったものの、フリーズドライ製品の前年の需要増に対する反動の影響が大きく、減益。

3-③. 物流セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（認識適用後）					営業利益				
		21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率	21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	進捗率
物流	物流	112	120	△ 8	165	68%	9	19	△ 10	18	50%

【事業概況】

新型コロナウイルスの影響が続くなか、水産品をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷活動を行い、在庫数量は回復傾向にあるものの、保管在庫数量については低調に推移し、前年より減少。また、2021年4月の名古屋物流センター開業により減価償却費等が増加したため、減収減益。

4. 連結貸借対照表

*2021年3月末の数値は、収益認識基準適用後の数値に組み替えております。

(単位:億円)

	21年12月末	21年3月末	増減		21年12月末	21年3月末	増減
流動資産	3,564	3,005	559	流動負債	2,477	2,140	338
現預金	245	316	△ 71	仕入債務	491	343	149
売上債権	1,539	1,026	512	短期借入金	1,495	1,359	135
棚卸資産	1,678	1,566	112	その他	491	438	54
短期貸付金	3	3	0	固定負債	1,514	1,522	△ 9
貸倒引当金	△ 5	△ 4	△ 1	長期借入金	1,236	1,239	△ 4
その他	105	99	7	その他	278	283	△ 5
				負債合計	3,991	3,662	329
固定資産	2,267	2,324	△ 57	株主資本	1,526	1,381	145
有形固定資産	1,412	1,479	△ 67	資本金	200	200	0
無形固定資産	225	199	26	剰余金	1,327	1,182	145
(内 のれん)	83	79	4	自己株式	△ 1	△ 1	△ 0
投資その他資産	629	645	△ 16	その他包括累計	56	44	12
				非支配株主持分	258	242	16
				純資産合計	1,840	1,667	173
資産合計	5,831	5,329	502	負債純資産合計	5,831	5,329	502

【資産の増加 502億円】

季節要因による売上債権の増加と棚卸資産の増加によるものであり、有形固定資産は、償却等により減少。

【負債の増加 329億円】

主に、販売増加に伴う仕入債務の増加と短期借入金の増加によるものである。
また、前年同期比では、主に有利子負債の減少により、74億円減少。

【ご参考】

自己資本	1,582	1,425	157
自己資本比率	27.1%	26.7%	0.4

5. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	21年12月期	20年12月期	増減	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	△42	23	△65	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 (+241) ・減価償却費 (+120) ・売上債権の増減<増加:△> (△489) ・棚卸資産の増減<増加:△> (△66) ・仕入債務の増減<減少:△> (+122) ・法人税等の支払額 (△27)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97	△169	72	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△117) ・有形固定資産の売却による収入 (+24)
財務活動によるキャッシュ・フロー	62	159	△98	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減 (+55) ・長期借入れによる収入 (+270) ・長期借入金の返済による支出 (△214)
現金・現金同等物の期末残高	241	221	20	—

6. 業績予想の修正

	修正前(通期)	修正後(通期)	第3四半期実績
売上高	8,200億円	8,600億円	6,612億円
営業利益	200億円	230億円	224億円
経常利益	210億円	260億円	248億円
親会社株主に帰属 する当期純利益	140億円	165億円	162億円

参考資料

▼2022年3月期 第3四半期 セグメント別実績

(単位：億円)

	売上高					営業利益				
	21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	計画比	21年12月期	20年12月期	増減	年間計画	計画比
水産資源セグメント	4,131	3,842	288	4,991	83%	128	61	67	83	154%
加工セグメント	2,265	2,160	104	2,922	78%	74	77	△ 3	94	79%
物流セグメント	112	120	△ 8	165	68%	9	19	△ 10	18	50%
その他	105	105	△ 1	122	86%	9	11	△ 1	5	180%
全社	0	0	0	-	-	3	4	△ 1	0	-
合計	6,612	6,228	384	8,200	81%	224	173	51	200	112%

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
メール：ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。